

大関のこども

7月前半号

R2 校長室だより 第5号
令和2年 7月 7日

HPアドレス
<http://www.ozeki.ed.jp>

学校再開から1か月、 新たな課題が見えてきました！

校長 濱辺 弘一

学校再開から1か月が過ぎました。お陰様で、全校児童161名が、毎日元気に学校生活を送っています。本当にうれしいことです。

しかし一方で、これほど子供たちの様子や活動状況に気を配ってきたことは、これまでなかったかもしれません。新型コロナウイルス感染防止対策を実施するに当たり、子供たちのことを第一に考えながら実施してきました。だからこそ、子供たちの様子で新たに増えてきたことがあります。

6月25日(木)、家庭・地域・学校協議会「大関っ子を育てる会」がありました。メンバーの一人が、「**毎朝の集団登校では、上級生が上手に1年生を連れていきます。その子に合わせてあげながら、みんな一緒になって登校しています。本当にやさしい子供たちですね。**」と話してくださいました。例年ならば、4月から2か月以上経てば、1年生の体力もついてきていて、梅雨のこの時期には、さっさと歩いて登校できるのですが、今年はちょっと違うようです。このような大関っ子の優しさが、いくつかの班で見られています。とってもうれしいお話です。

6月29日(月)、歯科検診がありました。感染防止対策として、給食後の歯磨きはやめています。その中での検診でしたので、心配していましたが、的中してしまいました。「**食べかす・磨き残しというよも、歯垢になってしまっています。**」というお話でした。これは、3か月に及ぶ臨時休業中の歯磨き状況を指摘されたこととなります。**毎日の習慣から、もう一度作り直していく必要がある**ようです。

7月2日(火)、朝礼を行いました。今年の目標として、【まずきこう】【自分から】【挑戦しよう】を掲げています。学校再開して1か月ですが、子供たちの話を聞く姿勢が気になっていました。**足の裏をしっかりと床につけ、背筋をピンと伸ばして、手遊びをしないで、しっかりと目を見て聞く、という基本姿勢が継続している**ようです。ほとんどの子供たちは「新しい生活様式」にも慣れてきていますが、まだまだ落ち着きのない児童もいるようです。正しい姿勢という、学校生活の基本から取り組んでいくことを話しました。

例年通りならば、全校での学校行事や縦割り活動、学年単位の遠足や校外学習等を通して、いろいろ学んでできるようになっていたことが、臨時休業によりできないできています。学校再開後は、遅れている学習にばかり気持ちが向かい、身につけるべきいろいろなことが不十分のままきているようです。基礎基本を疎かにすると、しっかりと積み上げていくことができません。今一度、毎日の生活習慣から見直す必要があります。ご家庭でも、毎日の歯磨きや正しい姿勢の声かけを、よろしくお願ひいたします。

コロナに負けない！
8つの約束

- ま** スクで守ろう、自分と相手
- け** んおんで、毎朝体温チェック
- る** ーるを守って、コロナ予防
- な** やみがあれば、すぐ相談
- お** おきな声は、ひかえよう
- お** たがいの距離は、ソーシャルディスタンス
- ぜ** んいんで、しっかり手あらい30秒
- き** れいな空気、換気しよう



生活の基本は『おはよう』から。民生委員・児童委員による『朝のあいさつ運動』がありました。!!

6日(月)坂井町民生委員・児童委員7名の方々が来校し、『朝のあいさつ運動』が行われました。マスク着用・大声は出さないという生活様式のため、大関小学校の伝統であった「元気な大きな声での挨拶」が見られなくなっていました。やはり、「おはよう！」の挨拶は基本です。挨拶すると、心までエネルギーがいっぱいになります。さらに、挨拶した人とは、心が通じ合った気持ちになります。まだ、大きな声は出せませんが、これからも、心の中ではしっかり声に出して、「おはようございます！」と言えるといいですね。



3年生の交通安全教室！正しい自転車の乗り方を教えていただきました！！

6月25日(木) 3年生の交通安全教室を行いました。正しい自転車の乗り方について、教えていただきました。道路を自転車で走行するときに守らなければならないことを、映像を使って説明してもらいました。ヘルメット着用については、保護者の努力義務になっていますが、事故に遭ったときや転倒したときには、自分の命を守るためには絶対に必要になることも教えていただきました。この交通安全教室をもって、3年生は公道で自転車に乗ることができます。安全に気をつけて自転車に乗るように心掛けましょう。



新型コロナウイルスであっても、災害は待ってはくれません！1~3年生で避難訓練をしました！

熊本県での記録的な大雨で球磨川が氾濫したのは、4日(土)の未明でした。避難所の体育館では、新型コロナウイルス感染防止のために、避難してきた人が間隔を開けていました。災害は、時や場所を選んでくれません。いつ起きるのかわからないので、被害を最小限に留めるためには、避難訓練が大切です。地震・火事・大雨等、何が起きるのか、いつ起きるのか、予想はできません。いざという時に、どのように行動したらいいのか、ご家庭でもよく話し合ってみてください。



大関きらら独り言

前回に引き続き、星渉さんの「子どもが伸びる 親のトーク術」です。

B 子どもの「自己重要感」を高めるトーク術

① 会話の量は、子ども 8、自分 2 ぐらいの割合で！…

・「自分は大切にされている」と感じる【自己重要感】は、相手が自分の話をしっかり聞いてくれているという感覚を持つことから生まれる。

○ 親が感情豊かに相づちを打とう！ ○ さりげなく質問、子どもの言葉を引き出そう！

② 「指示や命令する」のではなく、「アドバイスを求める」…子どもに決定権を委ねる

× 「お礼を言いなさい。」

× 「部屋の片付けをしなさい。」

○ 「なんて言ったら喜ぶかな？」

○ 「部屋が散らかっているけど、どうすればいいかな？」

○ 「どんなふうに伝えてみる？」

③ 「ありがとう！」をたくさん言う…家族間の場合「相手は感謝の気持ちをわかってくれている」と思い込んでしまっていることが多い。

・「○○ちゃんがいてくれて助かる～ ありがとう！」

④ 「NGワード」を設定する…自分の自己重要感が傷つけられた言葉を「NGワード」に設定し、知らず知らずに使ってしまうのを阻止する。

× 「バカじゃないの」

× 「ありえない」

× 「何言ってるの？」

× 「ぜんぜんダメ」

× 「信じられない」

⑤ 決めつけない → 「自分で気づかせる」ことが大切！

× 「それは絶対間違っている！」

× 「あなたには無理！」

× 「いいから、ママの言うとおりにして！」

⑥ やってほしいことを徹底的に褒める → 何度でも、繰り返し褒める！

脱いだものを洗濯カゴにちゃんと入れてほしい場合

その場で…「ちゃんと入れてくれた！うれしい！」

後から…「さっきはうれしかった。やればできるんだね！」

寝る前に…「今日はちゃんと洗濯カゴに入れてくれてありがとね！」

翌日にも…「昨日は洗濯カゴに入れてくれてありがとう。助かったよ！」